

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へ、
どうぞふるってご参加ください。

ふる里散歩



2/9 「冬の里山・バードウォッチング」の巻

天覧山周辺のさまざまな鳥達。さてこの日、どんな鳥と出会えるでしょうか。

講師/内田康夫 駿河台大学名誉教授

集合/能仁寺山門前 午前9時半

申込/不要 ★雨天中止

持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/300円（小学生以下100円）

3/30 「薪割り体験エコツアー」の巻

元祖自然エネルギー。山で伐った木で薪作り。薪を使って昼食（石窯ピザ）作りもしましょう！

集合/飯能市郷土館前

午前9時半（終了13時頃）

持ち物/作業ができる服装

要申込/先着15名

申込先/てんたの会 042-974-1691（浅野）

参加費/1500円（昼食代込・大人、子ども共）

4/13 「山桜と出会う」の巻

木々に山道に、少しずつ深まる春の息吹を感じましょう。★雨天中止

集合/能仁寺山門前 午前9時半

申込/不要

持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/300円（小学生以下100円）



【各回共通 共催/はんのう景観トラスト、（公財）埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部】
※2/9、4/13のみ、上記の他、はんのう市民環境会議共催

東谷津レポート

写真/会員 山梨光明

NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会公式ホームページ「東谷津のページ」でカラー写真を公開中！
天然の美しさをぜひご覧ください。
<http://www.tenranzan.com/higashi-yatsu.htm>



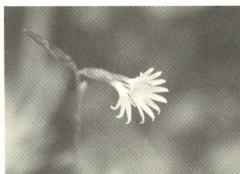
ヤブミョウガ



アシグロツユムシ



ヤマガラ



キッコウハグマ



ホソヒラタアブ



オオアオイトトンボの補食

やませみ

67

発行日/2014年1月1日

編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691（浅野正敏）

埼玉県飯能市柳町18-17

●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビングッドフェロー」「丹三郎」にあります。

●「やませみ」へのご意見をお寄せください。
投稿もお待ちしています。

URL=<http://www.tenranzan.com/>
E-mail=tenta@tenranzan.com



会員募集中!!



1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円
特別会員 10,000円

●賛助会員……1口 10,000円

*会費・カンパ送り先…郵便振替口座「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」00580-9-16342



NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No.67

2014.1.1

やませみ



もくじ ●年頭のご挨拶

●平成25年のてんた活動概要

●飯能は山菜・きのこ王国

●アライグマシンポジウム開催します

●谷津田の奇跡

●東谷津レポート

●ふる里散歩

食む草があり

駆ける野原があり

憩う木陰があり、集う一族が居り
囁きと交わし合う、それが世界だ

新年おめでとうございます

てんたの会代表 浅野正敏

私たちは、年が改まる毎に何事もリセットして心機一転しようという生きる術を持っています。しかし、世の中には、忘れようとしたり、目をつむってはいけない事もありますので、大きな目をあけてスタートする事にしましょう。さて2014年は、天覧山周辺の自然はどのように保全され、市民に親しまれる場所となるのでしょうか？

気になる動きの一つに、昨年設立された「奥武蔵・天覧山周辺再生の会（以下、再生の会）」による天覧山への植栽事業があります。再生の会としては、観光としての視点で飯能市にたくさんの人たちが来てくれるための事業を行っています。「飯能を人が集まる活性化した楽しいまちにする」という設立主旨には、だれも異論のないものであり、まちづくりの観点から協力していくべきものと考えています。ただ、自然の保全や再生、活用についての方法論については、これまで「てんたの会」が培ってきた自然生態系や多様性を重視した考え方を伝えていかなければなりません。

昨年12月1日、再生の会では市民によるツバキ苗木150本の植樹イベントを実施しました。子どもを中心とした家族での参加が目立

ち、市民参加を目指した目的に叶った事業となったようです。植栽した場所は、天覧山の麓にある「ニコニコ池」周辺で、能仁寺の外庭とも言えるところです。天覧山に自分で植えた木が育って大きくなるのを、参加した子どもたちがずっと見守ってくれるのだらうと思います。その事はとても大切な行為ですが、そうした園芸種（樹種選定においても元々この地に自生している植物をとも伝えておりましたが）の植樹は、あくまでも天覧山の範囲でと申し上げました。いろいろな考えを持つ、多様な団体・個人が天覧山周辺に関わっています。それを解決する方法は、ゾーン（区域）分けをして保全・再生そして活用を進めていくことだと考えています。幸いにも、天覧山裏山から多摩主山にかけては、土地所有者である西武鉄道、飯能市、はんのう市民環境会議などによる「保全のための懇話会」の中で「外来生物を持ち込まない、野生生物を持ち出さない」の合意形成がなされています。

いずれにしても、せっかく守られた貴重な里山の自然が、観光の名の下に壊されてしまわないようバランス感覚を持って関わって行きたいと思っています。

平成25年のてんた活動概要

- 1/ 1(火・祝日)ふる里散歩「初日に祈る山歩き」の巻
- 2/13(日) 沼田眞賞授賞式及び、てんたの会活動講演（清澄庭園大正記念館にて）
- 2/10(日) ふる里散歩「冬の里山・バードウォッチング」の巻
- 2/11(月・祝日) モニタリング1000報告会（飯能市郷土館・学習研修室にて）
- 3/10(日) ふる里散歩「早春の植物観察」の巻
- 4/14(日) ふる里散歩エコツアー「谷津田でおもしろ体験エコツアー」の巻
- 5/12(日) ふる里散歩特別企画「自然の中で婚活エコツアー」の巻
- 6/ 9(日) てんたの会定期総会及び、ヤマネ講演会（富士見地区行政センター集会所にて）
- 6/14(金) 「飯能・西武の森」現地視察会にて、てんた活動発表（飯能市郷土館・学習研修室にて）
- 6/30(日) ふる里散歩「ホテル観察会」の巻
- 7/21(日) ふる里散歩「ミクロの生態系コケ観察会」の巻
- 8/ 4(日) ふる里散歩「川のいきもの、おもしろ観察エコツアー」の巻
- 9/ 8(日) ふる里散歩「秋の虫を探そう」の巻
- 10/20(日) 第2回里山バザール（東谷津ほとけどじょうの里にて）
- 11/23(土) 天覧山谷津の里づくり「里山復活祭」への協力
- 12/ 8(日) ふる里散歩エコツアー「里山のリース作り」の巻

- ※ 定例作業 東谷津ほとけどじょうの里の作業日は、毎月第2日曜日及び、第4日曜日（前日の土曜日の場合もあり）で実施
- ※ 定例会及び理事会 毎月第2、第4金曜日夜（主に飯能市美杉台地区行政センターにて）
- ※ 毎月11日モニタリング1000調査（植物）
不定期モニタリング1000調査（カエル、ホテル、カヤネズミ、蝶、鳥）
- ※ 国の天然記念物に指定されている「ヤマネ」について飯能における実態調査と情報収集を25年度事業として適時実施
- ※ はんのう市民環境会議、市民活動ネットワークを進める会、天覧山谷津の里づくり作業、天・多保全のための懇話会、飯能市エコツーリズム推進協議会、奥武蔵・天覧山周辺再生の会 などに参画





タマゴタケ

飯能は山菜の王国

会員 三橋 明夫

1991年、緑と清流にあこがれて飯能中藤に移り住みました。それから22年。本当に飯能に来てよかったと思います。何が良かったって？それは山菜ときのこの豊富な山が健在で、春は山菜、秋はきのこ山栗の楽しい田舎生活ができることです。それでは飯能で、どんな山菜、きのこが採れるのかを紹介してみたいと思います。

引越して間もない頃、飯能の奥地に竹寺という寺があり、住職のお話つきで美味しい食事ができるという話を聞いて行ってみました。都内から竹寺ツアーバスで来る方々もいるという話でした。次々に出てくる料理の一つに、「あつ、この匂いは子供の頃に嗅いだことがある！」という一品がありました。住職さんに、「これは何ですか？」と聞いてみますと、「これはモミジガサといいます。東北ではシドケともいうようですよ。」シドケという名にハツとしました。青森県白神山地周辺で小中学時代を過ごした私には本当に懐かしい名前と匂いです。



タラの芽

「この辺で採れるのかあ！」次の日から裏山をその気になって歩いてみると、あるある。我が家のすぐ近くの杉山に生えているではありませんか。突然昔の味に目覚めてしまいました。山菜は更にシオデ（東北ではフィデコ or ソデコ）、タラの芽、ウド、ワラビ、ゼンマイ、芹、フキノトウ、ノビル、わさび等色々採れて、春は朝5時から1時間ほど山菜採りをしてから朝食を食べ、出勤という日もよくありました。

きのこの話題に移ります。ある秋の日、山菜採りの好きな青森の兄が「わさびは秋にも新しい葉を出すんだよ」と言っていたのを思い出し、裏山の昔の人たちが栽培したであろうわさび田の葉わさびを採集に行ったときのことです。それまでは檜と杉ばかりの飯能でキノコが採れるなどとは思いませんでした。ふと山の斜面を上ってみようかなと思ったのです。わずか30メートルほど登った斜面で私を待っていたのは美しい紫色のキノコでした。小学生の頃、溪流釣りから帰ってきた父が一度だけ採ってきたきのこ。その美しさに感動したことが突然蘇ってきました。その名は「紫シメジ」。あたりを探索とさらに7、8本発見しました。そこは狭いながらもコナラの多い雑木林。そんな雑木林はもつとないか？と注意して山を見ると、濃い杉・檜の緑の合間にあるのです。そんな雑木林を歩き始めて十数年。今まで飯能で採ったきのこは、ハツタケ、ヒラタケ、ナラタケ、アカモミタケ、ハイイロシメジ、ウラボニホテシメジ、タマゴタケ、アカヤ

アライグマシンポジウム開催します

会員 対馬良一

「あらいぐまラスカル」の放映ですっかり人気者となったアライグマが、目の敵にされている。農作物への被害はもとより、サンショウウオ

やカエルなどの捕食によって地域の生物多様性に深刻な被害が出ているのだ。昨年度、埼玉県では外来生物法（平成17年施行）に基づく「アライグマ防除実施計画」により2,800頭のアライグマが駆除されている。アライグマ被害が急増し始めたのが平成16年で、施行直前に継続飼育を望まない飼い主が自然に放したのがきっかけとなったという。県西部地区で多いのは東松山市と飯能市である。首都圏から近いIC付近が急増地となっているのは、少しでも自然のあるところに放そうという飼い主の温情なのかもしれない。人間の都合によってペットから駆除される動物という道をたどったアライグマ。ペットとして飼われている他の多くの外来生物を同じ立場に追い込まないように努めなくてはならない。外来生物の問題は「人と自然の関わりを考える」上で避けては通れない問題である。本会では、市内のアライグマ生息状況を調査することとし、以下のとおりシンポジウムを開催する。野生動物と人間の関係に関心のある方にはぜひ参加して頂きたい。



入場無料

アライグマシンポジウムin飯能 1月25日(土) 13:30~16:30

会場 / 飯能市美杉台地区行政センター (公民館) 集会室 (飯能市美杉台1-2-1)

交通 / 飯能駅南口 (西武池袋線) より「美杉台ニュータウン」行きに乗車3分、「美杉台小学校」下車 徒歩3分 (西武バス時刻表12時~15時台15, 25, 38, 45, 55分)

申込 / tenta@tenranzan.com
TEL 042-974-1691 (浅野)

講演 / ①アライグマは何が問題か——生態系、農水産業、文化財への被害
川道 美枝子氏 (関西野生生物研究所)

②アライグマは何が問題か——アライグマがもたらす疾病の危機
加藤 卓也氏 (日本獣医生命科学大学)

③原産国でのアライグマの行動
Stephanie Hauver氏 (米国コーネル大学)

④早期発見と実態を知るための市民活動 (所沢市での取組)
堀井 達夫氏 (公益財団法人トトロのふるさと基金)

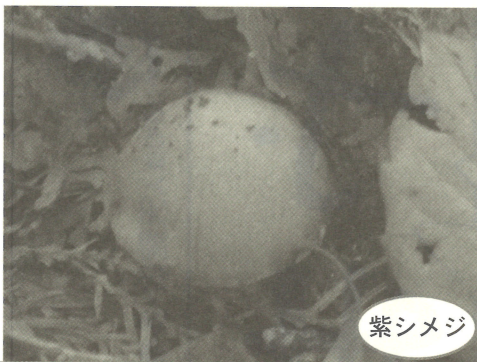
⑤アライグマ対策と動物の福祉
増田 真樹子氏 (獣医師・関西野生生物研究所)

主催 / 関西野生生物研究所、NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
後援 / 飯能市、公益財団法人トトロのふるさと基金、日本獣医生命科学大学、生物多様性JAPAN

*経団連自然保護基金・トヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて開催されます。



ゼンマイ



紫シメジ

マドリ、クリタケ、キクラゲ、アマタケ、アカハツ、ベニチャワンタケ、ハナヒラニカワタケ、カラカサタケなど…。どれも美味しいきのこでした。

そんな楽しく幸せな山歩き生活に突然暗雲が…。もうすぐ3年になる福島第1原発のメルトダウンです。300km以上離れているから、3年もたつたから大丈夫なのでは…、等という甘い判断はとんでもないという事実が次々明らかになってきました。特にきのこは数年かけて朽ちた木や葉を栄養分に育ちます。その中に含まれた放射性物質は一本一本計ってみなければわかりません。もう採ってきたきのこを人にあげることもはばかられる状況になってしまいました。「自然と共に生きる」という地球に暮らす一生物として、原発はなくてはならないと強く思うのです。

谷津田の奇跡

モニタリング10000鳥調査担当 河合 裕

「天覧入り谷津田」における日々の観察は、何とも貴重な体験をもたらしてくれました。2013年4月22日冬鳥達も旅立った谷津田のアカメヤナギの枝に1羽の小鳥を偶然に見！わずか12mそこそこの離れた枝に何やら嘴をこすりつけ、羽を広げる小鳥「あつ！コサメビタキ！」



早々と渡来したコサメビタキの営巣がこの谷津田のアカメヤナギで始まり38日間に及ぶ営巣のドラマに遭遇する幸運は奇跡的でした。



残念ながら5羽生まれただけから巣立ちできたのは1羽だけと、自然界の生存競争の厳しい現実を見せつけられました。小さな鳥の献身的な子育ては、驚くばかりの展開、子育て終盤の様子は、様々な外敵から雛を守る親鳥の必死な行動に感動を覚える展開となり、谷津田の自然観察の懐の大きさを再認識しました。繁殖期の谷津田周辺に2013年は随分と賑やかな子育てがあちらこちらで有り、夏から秋にかけてキビタキ・ホオジロ・ヒヨドリ・キセキレイ・セグロセキレイ・イカルそしてサンコウチョウと巣立ちした雛を確認、谷津田周辺の自然環境が想像以上に野鳥の子育てに適してきたかとの思いを廻らせる日々でした。

初夏、運が良ければ、天覧山周辺でサンコウチョウと遭遇することも！



野鳥撮影と共に2013年4月から11月までのわずか8ヶ月の間で山野草150種以上、昆虫や虫150種以上、そして2012年、2013年で52種類もの野鳥との遭遇を振りかえる

と、この谷津田が稀有な自然環境を備えている貴重な場所と思うのは私だけでしょうか、2014年も新たな種の観察の可能性、多様性に富んだ動植物の生存環境がより確実に保持されることを祈るばかりです。

今年も谷津田で自然を愛する皆様方にお会い出来るのを楽しみにお待ちしております。